心をひとつに

秋田県人会 九州・沖縄

題字：ばんば三郎

石坂洋次郎60歳の声



2025年は戦後80年、更に昭和100年、ラジオ放送開始100年にも当たります。
2025年9月25日、評論家の保坂正康さん(85歳)が『保坂正康が語る昭和人物史』で戦前に秋田県横手市で暮らした作家・石坂洋次郎(1900～1986)を取り上げ、65年前の昭和35年5月にNHKラジオ第2で放送された「教養特集、文壇よもやま話」から石坂洋次郎の声を再放送しました。
石坂洋次郎は弘前市の生まれで、慶応大学文学部を卒業後、旧制横手高女や横手中学で教鞭を執り、戦後、朝日新聞に連載小説「青い山脈」を発表し作家としての地位を確立しました。
「青い山脈」は映画化もされ、大部分のロケは横手市で行われました。横手城址には石坂の文学碑があり、小説「若い人」の1節が刻まれています。
そこには、「小さな完成よりも、あなたの孕んでいる未完成の方が、はるかに大きなものがあることを忘れてはならないと思う。」とあります。

今野勉さんと秋田



今野さんは1936年に秋田県河辺郡仁井田村(現在の秋田市)で生まれましたが、4歳から高校卒業までは北海道夕張市で育ちました。
父親は炭鉱で働いていましたが、病気がちで家は貧しく、夕張南高校在学中は進学せず炭鉱で働くつもりでした。修学旅行の積立金を受験料に当てる事で受験を許され、学費の安い東北大学文学部に入学し、卒業後の1959年にTBSに入社します。テレビ放送開始から間もなくの入社でドラマやドキュメンタリーの制作に関わり、1964年、日本人として初めてテレビドラマ「土曜と月曜の間で」(東芝日曜劇場)でイタリア賞を受賞します。1970年にTBSの仲間25人と退社し、テレビマンユニオンを創立しました。
そこで初めて作ったドキュメンタリーが「遠くへ行きたい」(読売テレビ)でした。NHKスペシャル、こころの王国で童謡詩人・金子みすずの世界(1995年)を制作。最近は医師・門屋養安(かどや・ようあん1792～1873)の日記を読み、劇団わらび座の戯曲を制作されました。門屋養安は山形の新庄藩生まれで、院内銀山のお抱え医師でしたが、院内銀山の経営などにも関わりました。日記には院内銀山(※)の坑内に桃の花を生けたなどの記述があると今野さんは紹介しています。
今野さんはワールドゲームス秋田2001の開会式プロデューサーも務めました。
「北海道に引っ越してから祖母の家には度々遊びに来た。仁井田の田園風景は今でも心に残っている。家の近くには小川が流れ田んぼや畦道があって、メダカやアヒルがいた。夕方になると農家の人が馬を洗っていた。本当に素朴な生活風景だった。ほんの50年前のことだが、今は、そんな風景はどこにも無くなってしまった。年齢のせいか、昔の風景の方が豊かに見えてしようがない。」これはワールドゲームス秋田2001の開会式プロデューサーを務める前に語った事です。
子守歌のように祖母が歌ってくれた秋田民謡、やわらかで心のぬくもりが伝わってくるような秋田弁、私の中の秋田と、そして新たに発見する秋田との融合に私自身も、ときめいている。1998年長野冬季五輪で開閉会式演出、2020年に放送分野で初の文化功労者。
※　院内銀山：1606～1954、秋田県雄勝郡院内町、現在の湯沢市にあった銀山で東洋一と言われ人口1万5千人と城下町久保田・現在の秋田市を凌ぐ町に発展。

B29墜落から80年

今年は終戦から80年。8月15日を中心に平和を考える機会の多い年です。写真は今年6月、秋田市の探検家、高橋大輔さん(58歳)が男鹿半島本山(標高715m)の中腹で発見した米軍B29の機体の一部です。

B29は、終戦から間もない1945年8月28日、大館市にあった米軍捕虜収容所に食料を運ぶため、能代市の東雲飛行場に向かう途中でした。12人が乗り組んでいましたが、19歳の軍曹、ノーマン・マーチンさんを除いて11人が死亡しました。



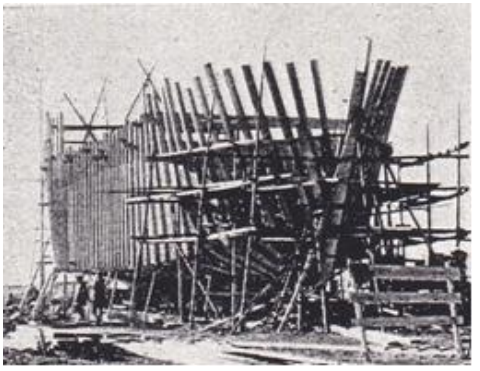
マーチンさんは、加茂青砂地区の住民の手当てを受け、秋田市で荼毘に付された11人の遺体と共に能代市に向かいました。

能代市の東雲飛行場から米軍基地に戻るためです。能代市の教会では弘前市から駆け付けたキリスト教主教が礼拝したと記録に残っています。この主教は福岡・秋田県人会会員の親族です。戦後80年経て見つかったB29の機体の一部などを探検家の高橋さんは保存して後世に伝えるべきではないかと話しています。

下記URLは、高橋さん提供のニュースです。

https://news.ntv.co.jp/n/abs/category/society/abc2286e4a3e0e4dd8847ce4d08970ed1b

松下電器産業35年史、標準型木造船



昭和18年4月、松下電器は、海上輸送を強化するため戦時標準型の木造船製造を目的として松下造船株式会社を設立しました。

秋田県能代市と大阪堺市に造船所が造られ、6日に1隻ずつ進水する「流れ作業方式」を取りました。第1船は同年12月18日に進水しましたが、資材や材料難に加えて燃料の不足もあり、1日1隻進水という目標は実現できませんでした。

この話は、9月16日に福岡市を訪れた秋田県社会福祉法人経営者協議会会長の丸岡一直さんに伺いました。丸岡さんは、2019年8月にも佐賀県小城市を訪ね当時の江里口秀次市長と肥州藩八勇士と秋田二ツ井という戊辰戦争から150年のテーマで講演しています。

大館能代空港から羽田経由で夕方に福岡に着いた丸岡さん。市内の宿舎に向かう途中、凄まじい夕立に見舞われました。ずぶ濡れで歩いていたら、見知らぬ若い女性に傘を頂き、更に若い男性には濡れずに済む道順を教えて頂くという人情に触れたそうです。

秋田と直方などに建設された日満技術工養成所



写真は1938年に秋田市茨島に開校した日満技術工養成所です。

現在は秋田市教育研究所が建っている所です。財団法人鉄工技術員協会が設立した全寮制の私立の実業学校です。建設費や設備は満州国政府から交付され満州語も履修し、卒業後は技術指導者として満州国鉱工業の発展に貢献するのが養成所の目的です。

養成所には日本、満洲、朝鮮、蒙古、白系ロシアの優秀な生徒が集まり、採鉱科と鉱山機械科合せて定員は100名でした。秋田市と酒田市、それに福岡県直方市の3か所に建設されました。

秋田市の「日満」は戦後の一時期、秋田商業学校の校舎として使われましたが、余りに荒廃が進んでいたため生徒は苦労したそうです。この話は9月13日に福岡市で開催された建築家・松岡恭子さんとサントリー地域文化賞受賞の大井実さんのトークショーから。また、建築家・前川國男（1905～1986）の設計だった事も分かりました。

夏の甲子園に福岡・秋田県人会から応援

2025年夏の甲子園1回戦「金足農業 対 沖縄尚学」に福岡・秋田県人会、理事の渡辺悦子さんが、かつて野球少年だったご主人と一緒に新幹線で駆け付けました。

金農チームには7年前の大会で準優勝に輝いた時のメンバーの弟が5人所属していました。5回途中からは、プロ野球オリックスの吉田輝星投手の弟・大輝選手（3年）が登板しました。決勝点を奪われましたが、兄を彷彿とさせる投げっぷりの良さでスタンドを沸かせました。試合は1対0で敗れ「金農旋風」の再現はかないませんでしたが、スタンドからは大きな労いの拍手が送られました。

甲子園には、近畿秋田県人会の会員が手製の金農のうちわを手に集まり、郷土の代表にエールを送りました。近畿秋田県人会は1896年（明治29年）創立で130年近い歴史があり、500人近い会員がいます。春の選抜、夏の甲子園のほか、年間10回近いイベントを開催しています。会員の寄付などで愛郷基金という制度もあり、活動は極めて活発です。渡辺理事は、応援のあと近畿秋田県人会の懇親会にも参加し、以前、みちのく夢プラザに勤務していた秋田県庁の元職員・長崎直樹さんや、同郷の方と親しく語らいました。懇親会の会場は球場近くの居酒屋で、近畿秋田県人会の行き付けということで貸し切りになり、まるで、秋田に帰ったような時間を過ごしたそうです。





全国中学校軟式野球大会で横手南中学校がベスト16

8月18日（月）に佐賀市立野球場で行われた1回戦で、東北代表の横手南中学校は大阪府の吹田市立山田中学校と対戦し、4対3で延長8回劇的なサヨナラ勝ちを収めました。

会場の佐賀市立野球場には選手13名、監督とコーチで計15名のほか、選手の父母が秋田から約30人も駆け付けました。



旧盆明け間もない為、選手や家族は航空券が入手できず、秋田から新幹線乗り継ぎで片道10時間以上かけて佐賀に入りました。応援団は相手チームの5倍の人数で声援を送りました。乳母車に乗った小さなお子さんもいました。試合には地元の佐賀秋田県人会などから延べ7人が駆けつけ、横断幕を掲げて応援に加わりました。

横手南中学校野球部コーチで教頭をしている横井一也先生からは秋田銘菓の金萬の差し入れを頂きました。その横手南中学の合言葉は「雨洗風磨」(うせん・ふうま)という禅の言葉です。横手南中は2回戦で日章学園中に6対2で敗れましたが、ベスト16と言う成績を持って堂々と故郷へ凱旋しました。

そーはく、初めての関東遠征





福岡・秋田県人会会員で筑後市でギターの弾き語り教室を主宰している「そーはく(伊藤和憲さん)」が、コンビを組む三線(さんしん)シンガー沙織さんと、初めて関東に遠征しました。

8月9日(土)19時、場所は千葉県銚子市に近い茨城県神栖(かみす)市の居酒屋「がちまやー」(沖縄の言葉で食いしん坊)で、夏の琉球ライブ。

二人は福岡空港から成田空港へ飛び、レンタカーで会場入りで筑後市から東へ直線距離1000キロの遠征です。「がちまやー」は普段から沖縄料理店として営業しており、かりゆしウェアを着た沖縄ファンや、沖縄出身の方で会場は満員の盛況でした。

「そーはく」は福岡や佐賀、熊本などでライブ活動をしていますが、可能な限り遠方にも出かけたいと言っています。

福岡・秋田県人会が初めての女子会



10月4日(土)、午後0時半から福岡・秋田県人会が初めての女子会を開きました。

会場は福岡市博多区中洲5丁目のホテル「ザ・ライブラリー福岡博多」のレストラン。初参加の田渕則子さん、袴着真由子さんや、生後3か月の赤ちゃんを連れた会員など、12名が顔をそろえました。

理事の福圓あゆみさんの仕切りで柴田須磨子さんが乾杯の音頭を取りました。このホテルは、5年前にオープンしたライフスタイルホテルと呼ばれる新しい形式のホテルです。秋の味覚を取り入れた料理が凝った器に乗って提供されます。

料理を堪能しながら一人ずつ自己紹介して行きました。レストランがお洒落だったせいか、秋田弁が飛び交う場面は少なかったように感じました。最後に理事の渡辺悦子さんが、またお会いしましょうと挨拶してお開きになりました。参加者のみなさんには、熊本秋田県人会で世話役をしている水俣市の長谷川さんから秋田銘菓の金萬の記事が載った熊本日々新聞がLINEで配られ、金萬の差し入れもありました。

川村正伸さんがバーシティ・ウエイトルームをオープン



福岡・秋田県人会、会員の川村正伸さん（48歳）が、2025年9月1日（月）、福岡市博多区麦野にバーシティ・ウエイトルームをオープンしました。

川村さんは米国カリフォルニア州立大学フレズノ校で運動学や生理学などを学び、秋田市で15年間、秋田ノーザンハピネッツやブラウブリッツ秋田、ラグビーワールドカップのフィジー代表、東北楽天イーグルスなどのトップアスリートの競技力向上とフィジカル強化に取り組んできました。

1年前から福岡市に拠点を移し新しい活躍の舞台を整えました。秋田県人会会員の皆さんのご支援をお願い致します。ウエイトルームは、福岡市博多区麦野1－30－17です。

うみさと 2代目あさひるばん



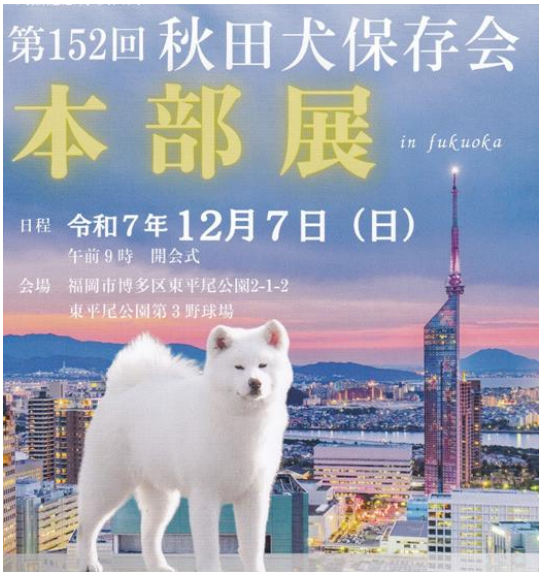
福岡市中央区赤坂1丁目11－1で「うみさと食堂＆酒場」を経営する由利本荘市出身の村上弥さんが朝食を始めました。

銀鮭イクラ朝定食1500円～特上銀鮭イクラ朝定食2000円など4種類です。

朝は午前8時から午前10時半。朝食の用意は村上さんでなく別の方にお願いしています。日曜・定休です。

昼は11時半～14時、夜は17時半～23時です。長い間、福岡・秋田県人会の溜まり場だった博多駅前の「あさひるばん」（閉店）も故・滑川勉さんが経営していました。いわば2代目の「あさひるばん」です。

福岡で20年ぶりの秋田犬本部展



12月7日（日）午前9時から福岡市博多区東平尾公園の第3野球場で福岡では20年ぶりの秋田犬保存会全国展が開催されます。

全国の秋田犬愛好家が日頃、大切に育てている秋田犬、約150頭と関係者、約500名が会場に集まります。

中心になっているのは秋田犬保存会福岡県支部の崎山公徳さんで、福岡・秋田県人会からも会員約10名が全国展運営の補助に当たります。

福岡・秋田県人会は秋田犬保存会と博多どんたくやイベントでの子犬の出演などを通じて交流しています。

湯沢市　絵どうろうまつり

福岡市西区で長く公民館長を務め、現役時代に秋田で生活したNさんが8月6日、湯沢市の七夕絵どうろうまつりを訪ねました。

秋田藩の佐竹南家7代目義安公に京都の公卿・鷹司家から姫君が嫁がれました。その姫君が京都への想いを五色の短冊に託し青竹に飾り付けたのが始まりと言われています。夜に浮かぶ、夢あかり。時代を超えて幻想と美の夏です。



福岡

◎　福岡・秋田県人会35年史QRコード
2022年に制作した13分程の動画です。
QRコード・リーダーで読み取って下さい。



◎　福岡・秋田県人会は、新年会を1月24日（土）に開催予定です。
担当理事は村木千隼さんです。
時間や場所が決まり次第、往復ハガキで、ご案内します。

◎　年会費の納入有難うございました。振り込みが、お済みでない方は、福岡・秋田県人会ホームページ、 https://akitafukuoka.com/ の会則に振込先を記載していますので宜しく、お願い致します。

熊本

熊本秋田県人会は新年会を2026年1月か2月に開催します。詳細が決まれば、ご案内します。

沖縄

◎　秋田県人沖縄会は毎月第4土曜日の18時が月例の模合です。
場所は、那覇市前島2－5－14「花より」電話098-862-3051です。

◎　秋田県人沖縄会新年会：2026年1月24日（土）　18時半～
ダブルツリーヒルトンby那覇首里城「グランドキャッスルダイニング」
（那覇市首里山川町1-132-1）
問い合わせは、宮城由美子・会長090-9786-6649へ、どうぞ。

募集

九州沖縄秋田県人会だよりへの投稿をお待ちしております。
お名前と写真だけでも結構です。
宛先は、o-nakamura@mms.bbiq.jpへお願い致します。
会報へのご意見、ご感想も、
お願い致します。

